

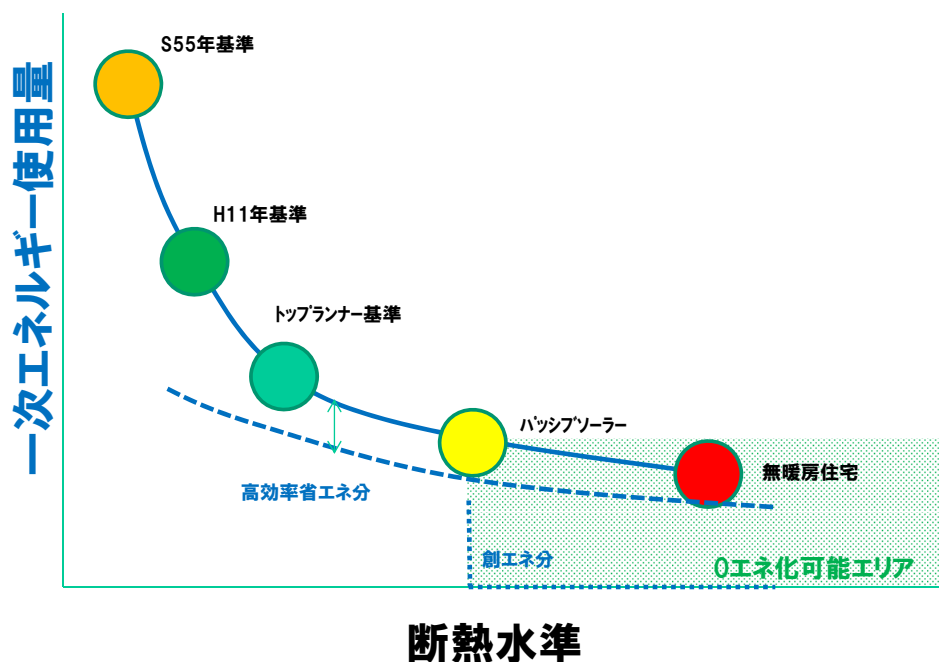
パネルディスカッション

# 「HEAT20が創る住宅」に向けて 省エネ効果とコスト

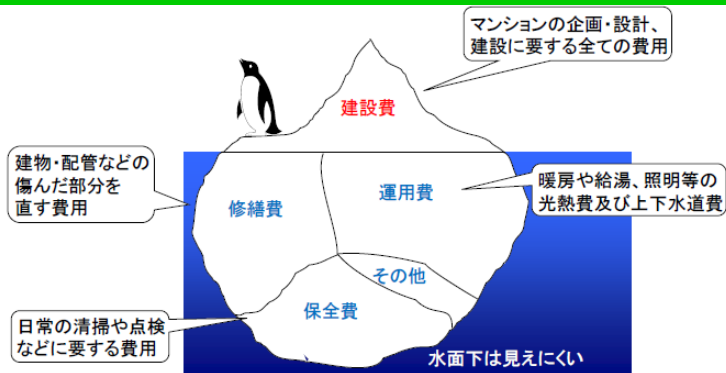
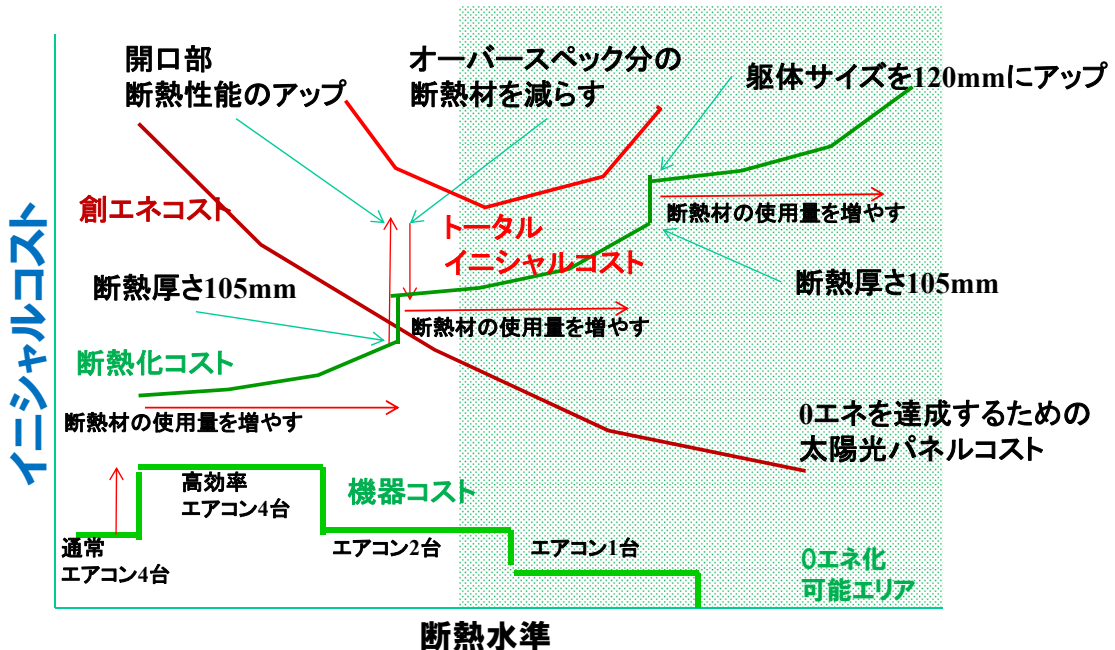
- 1) イニシャルコスト
- 2) メンテナンスコスト
- 3) 新たなコストおよびメリット

(株)JSP EPS事業部 開発一部

小浦 孝次



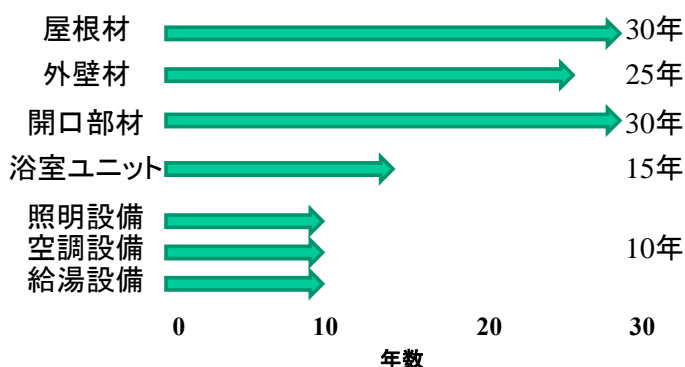
<ネット通販販売価格>  
 断熱材 Q=2.7 → Q=1.9 ...+10~20万円?  
 開口部 アルミ単板 → アルミ複層 ...+50万円?  
           アルミ複層 → 樹脂 LowE複層 ...+50万円?  
 木材 105角 杉一等 → 120角 杉一等 ...+45~50万円?  
 エアコン APF 5.8=3~4万円/台 APF 6.5=5~7万円/台 APF 7.2=8万円/台



マンションでは長期修繕計画と積立金計画の作成が奨励されている

では戸建て住宅ではどうなるかの視点も必要ではないか？

大手住宅メーカーがHPで公開している戸建て住宅メンテナンス計画(交換周期)



達成される性能に松・竹・梅がある場合

交換周期により現在何処まで達成しておくのが良いかの判断があるはずではないか？

また、長期修繕計画が必要ではないか

省エネ基準義務化を考えると

「ちゃんとした材料をきちんと施工する」為の検査が必要ではないか

### 米国の基本的商習慣……契約と極度の自己責任

ビルダーが融資を受けるには22項目(工事種別毎に材質等を記入した資料)で融資審査を受ける

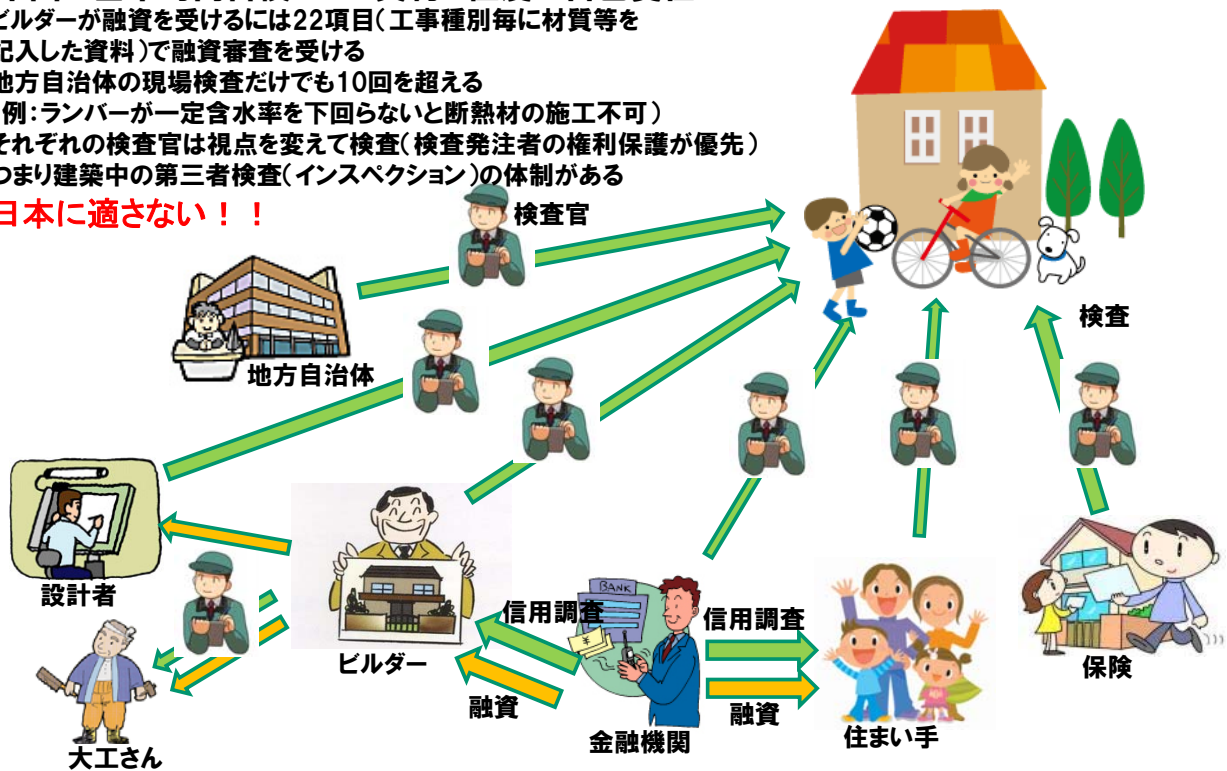
地方自治体の現場検査だけでも10回を超える

(例:ランバーが一定含水率を下回らないと断熱材の施工不可)

それぞれの検査官は視点を変えて検査(検査発注者の権利保護が優先)

つまり建築中の第三者検査(インスペクション)の体制がある

**日本に適さない!!**



- ・日本に適した現場チェック体制の検討
- ・検査費用の問題
- ・日本人の国民性

金融機関

保険会社(損害保険)

保険会社(生命保険)

を巻き込んだ議論が出来るかが鍵と成らないか?